「熊谷市中心市街地地区（第２期）都市再生整備計画事後評価（案）」
に対する意見及び市の考え方

１　意見募集期間
令和４年１２月２１日（水曜日）から令和５年１月２０日（金曜日）まで

２　意見の提出者数及び意見の件数
提出者数　　２名
意見の件数　　４件

３　意見の概要及び市の考え方

【意見番号】 該当箇所	意見の内容	市の考え方
【1】 5)実施過程の評価 官民連携による取組(2)	【まちづくりのワークショップは今後も引き続き開催してほしい】 ワークショップは都市計画の内容やその取組について市民が知り、考えるとても良い機会だと思う。 以前、籠原駅等で行われていたパネル展示とアンケート調査は通りすがりにも目を引き、気軽に見られたり答えられる感じがとても良かった。市民が興味をもつきっかけになると思った。	ご意見のとおり、まちづくりのワークショップは、市の考えや施策を周知し、市民の皆様に考えていただく機会と考えておりますので、今後も開催していきます。
【2】 5）実施過程の評価 持続的なまちづくり体制の構築(1)（2）	【具体的にどこにどのように行われたのか知りたかった】 せっかくの取組をもっと市民に知ってもらえるよう告知してもよいのではないか。	Wi-Fi の設置や空き店舗等活用支援事業等の個別事業は、市報やホームページを用いて広報を行いました。 引き続き、周知方法を工夫してまいります。
【3】 地区の概要	【自転車専用路がだんだんと整備され、またシェアサイクルも徐々に浸透してきているように思うが、街なかを歩く人はまだまだ少ない】 道路環境、歩行者・自転車の通行環境と併せて、人流や滞留できる空間づくりも進めてほしい。 街なかを歩く人が少ないのは、自動車での移動が多いのが理由の一つだと思う。 低未利用の公共施設・空間や道路空間を活用したウォーカブルなまちづくりが人流や滞留を生み出し、街なかの賑わいに繋がると考える。 民間企業や活動団体、市関係各課と連携をとり、市民・行政が力を合わせ暮らしやすく魅力ある熊谷のまちづくりを進められるとよいと思う。	次期計画では、本事後評価を踏まえて、居心地がよく歩きたくなる空間づくりに向けて、賑わい形成及びエリアの魅力向上について、学識経験者や民間事業者を交えて協議を重ねています。

【4】 地区の概要	【カラー図表の説明にウォーカブルとあるが】 　『歩きやすい』などと、わかり易い言葉を使った方がいいのでは。	本計画ではまちなかウォーカブル区域を指定しておりませんので、表記を整理します。